



We Support UNICEF

世界中の子どもたち 世界中のともだち

報告者 三重県鈴鹿市立庄内小学校 麻生 佳代子先生

ポイント

4月の学級会。みんなの願いは、なかよく助け合いながら明るく楽しいクラスをつくっていきたいということ。4年生は仲間意識が強くなる学年である。この学年にこそ、世界に目をむけ、心をひらかせていくのにぴったりの時期なのではないか。会ったことがなくても、同じ地球に住む子どもとして、ともだちとして、つながり合って生きていくことの大切さやすばらしさを実感させてやりたいと思った。

「世界のどこかにくらすともだちのために何をしてあげればよいのか」「今の自分たちにできることはなんだろう」これらを考えさせ、行動させていきたいと思い、『世界中の子どもたち 世界中のともだち』をテーマに取り組むことにした。

子どもたちが世界の国々について知っていることといえば、スポーツや動物、食べ物に関する情報ぐらい。こんな子どもたちには、過酷な状況の中で生きている友だちの存在が信じられないようであった。今も戦争の続く地域で自らも武器を持って戦う男の子、地雷で足をなくした男の子、12才で結婚させられる女の子、毎日水くみに明け暮れる女の子、そして、3秒に一人が幼い命を亡くしていく。学習を重ねるたびに見えてくる世界の現状に驚きとショックを隠せない子どもたちであったが、その事実から目をそらそうとはしなかった。「どうして?」「なぜ?」「もっと知りたい」という思いを強くしていった。自分たちが今しあわせでいられることに感謝すると同時に、不平等な暮らしに疑問を持ち、世界中の人々が幸せにくらしてほしいという願いも抱くようになった。また、貧しくもたくましく生きる人々の姿から勇気や感動を与えられ、ただ願うだけではなく、自分たちにできる何かを始めたい、始めなければならないという気持ちへと高まっていった。

活動計画

	主 な 内 容
第1次	のぞいてみよう、世界の子どもたちの暮らし ユニセフサイト「子どもと先生の広場」を活用し、世界の子どもたちが抱える問題を知った。
第2次	元青年海外協力隊の話を聞こう ニジェール、スリランカ、セネガルで協力活動をした人々の話を聞き、自分達も世界の子どもたちのために何かやりたいという思いを強くした。
第3次	ユニセフのねがいとわたし達のねがいは同じ 日本ユニセフ協会のサイト「子どもと先生の広場」を活用し、ユニセフの活動内容や目的を理解し、活動に参加・協力していくことを確認した。
第4次	We Support UNICEF 自分たちにできることは何かを考え、世界の子どもたちの現状を学校・地域に知ってもらうことと募金活動に取り組むことを決定し、実践を展開した。

実践

本校では、毎年秋に学習発表と地域の人々との交流を目的にした学校行事『庄内祭』を開催する。多くの人々に協力してもらえる絶好の機会と考え、この日に向けて準備を進めた。募金活動だけではなく、多くの人々に世界の子もたちの暮らしを知ってもらうこともユニセフ活動の大切な使命であると理解した子どもたちは、2部構成で活動を展開していくことを考えついた。

第1部 世界中の子どもたち 世界中の友だち

第1部は発表の部。教室の中央に客席をつくり、前面にスクリーンを配置。絵本『もったいないばあさんと考えよう世界のこと』（真珠まり子作 講談社）をもとにしたシナリオで、絵をスクリーンに映し出ししながら、子どもたちが登場人物になりきって現状を訴え、協力を呼びかけた。

〈ユニセフコーナー〉



「ユニセフポスター」「世界の子どもポスター」を掲示し、ポスターの周りには『世界のこどもたちの暮らしを知って…わたしの気持ち ぼくの願い』を書いたものも掲示した。

パソコンで世界の子どもたちをみたら、そこには安全な水をのめない子どもがいました。おなかのへっている子ども、学校へ行けない子どもがいました。わたしはいろんな気持ちでいっぱいになりました。この子たちに学校へ行って楽しんでもらいたいと思いました。
(児童のコメントより)

女の子が運ぶ水がめ
水がはいって15kgの重さを体験できる



第2部 Happiness Shop We wish everyone becomes Happy.

「世界中の子どもたちが幸せにくらせますように」と願いをこめたお店を開店。「おりがみショップ」「クッキーショップ」「プラ版ショップ」「アクセサリーショップ」「木の实のおもちゃ屋さん」等、手作りの品を買ってもらうことで募金活動を展開した。



協力を呼びかける新聞を作成。全校児童に配付するとともに地域の広報板に掲示したため、当日は大勢のお客さんでにぎわった。



募金はその人の気持ちが大切。だから商品には値段はつけていません。お金の代わりにペットボトルキャップでもOKだよ！

世界のお友だちも、今日この会場に来てくれた人もみんなが幸せになってほしい。だから心をこめていっしょけんめい作ったよ。



募金箱も手作り。世界の国旗を募金箱に描いた。たくさんの人が協力してくれますように。



子どもたちの感想



ぼくは発表しているときにうなずいてくれる人がいてとてもうれしかったです。世界の子どもたちのことをわかってくれたんだと思います。ぼくはこれからもユニセフ募金に協力したいと思いました。

ハピネスショップを開いて、お金やペットボトルキャップがいっぱい集まりました。これで世界のお友だちに幸せな暮らしをしてほしいと思っています。そうなったらぼくもうれしいです。

ハピネスショップを開いて、地域の人たちに世界の子どもたちがどんな暮らしをしているかわかってもらえてうれしいです。お店で商品売ってペットボトルキャップやお金をたくさん入れてもらえてうれしかったです。これからも自分でやっていけることはやっていきたいです。

発表をしているとき、女の子がしんけんな顔で見えていました。うれしかったです。庄内祭が終わってお金の数を調べてみました。100円で5人の子どもたちが救えると聞いてびっくりしました。人の役に立てるってこんな気持ちになるんだなあと思いました。その気持ちは「喜」です。

成 果

自分たちの気持ちがみんなの心を動かしたこと、自分たちの行動がみんなの賛同を得て大きな力に変えていけること、人の役に立てるってということはこんなにも大きな感動となって自分たちにかえってくること、これが支え合いであり、つながり合いであることを実感した子どもたち。

今年度、総合的な学習の時間に半年かけてじっくりとユニセフ活動に取り組んできたが、この活動を支えてくれたのは、日本ユニセフ協会のサイト「子どもと先生の広場」であり、たくさんの貸し出し物や出版物等であった。とてもよい教材に恵まれて、充実した学習活動を展開することができた。